

自己評価報告書

令和元年度 阪本小学校 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立阪本小学校 所在地：中央区日本橋兜町15-3

校長名：小川 優

児童数 164名

学級数 6

教員数 19名

職員数 46名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標 1

<評価項目> 問題解決的な能力の育成、学習習慣の確立

重点目標 2

<評価項目> 元気良い挨拶や返事の励行、受容的な学校風土の形成

重点目標 3

<評価項目> 「日本の伝統文化理解教育・環境教育・キャリア教育」の推進

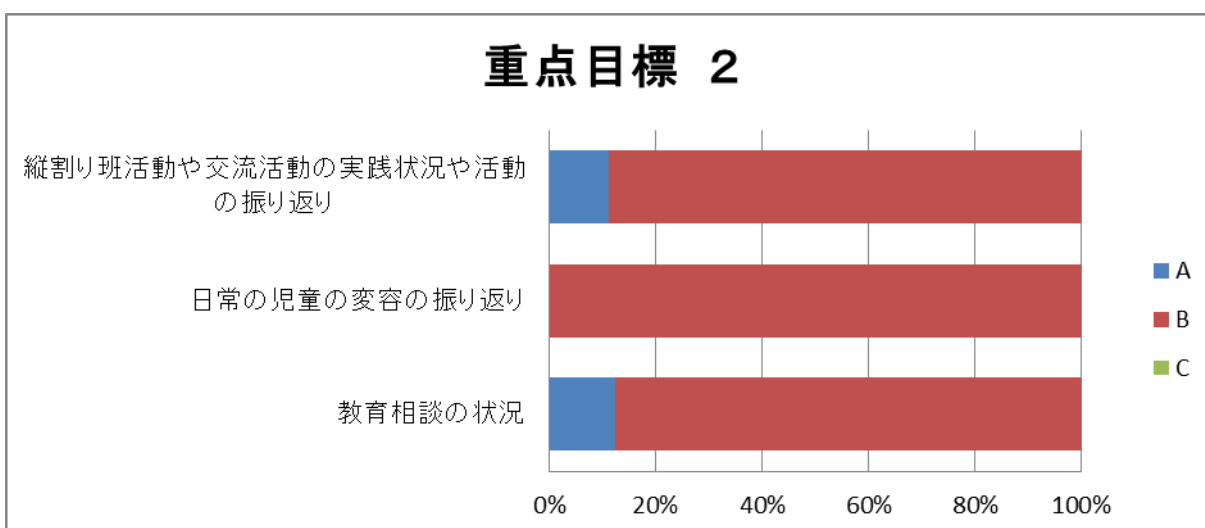
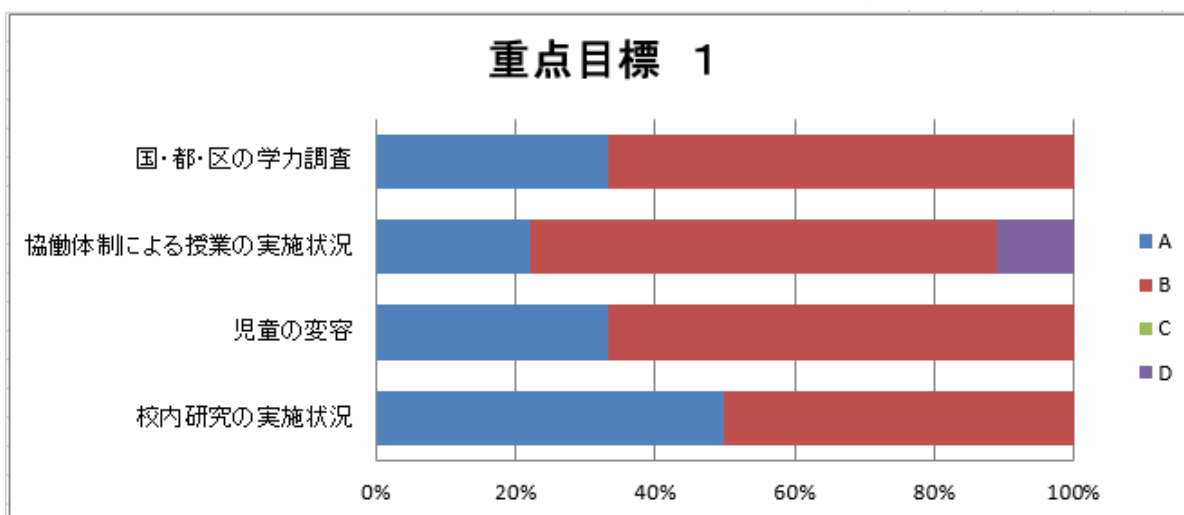
【教師用自己評価結果グラフ】

A：十分達成している

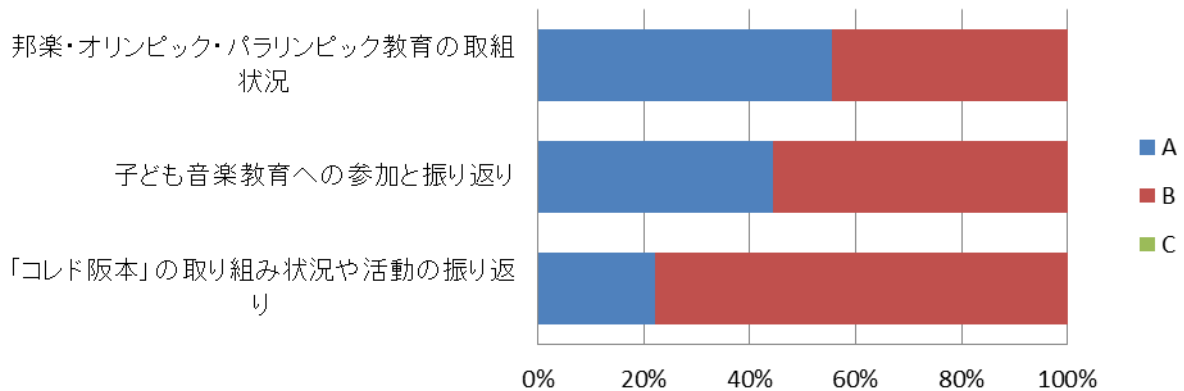
B：達成している

C：改善を要する

D：緊急に改善を要する



重点目標 3

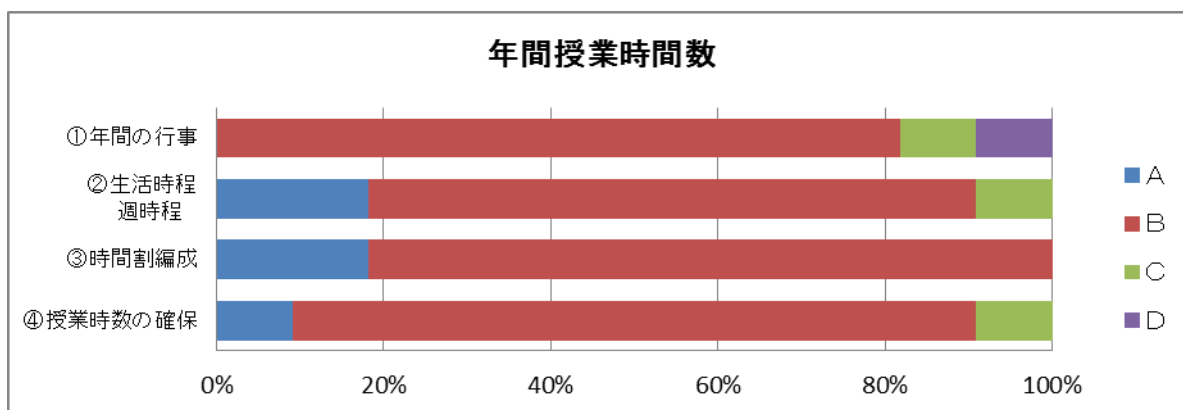


評価指標ごとに見ると、ほぼ「B：達成している」以上の評価であるが、重点目標1について、「協働体制による授業の実施状況」については、「D：緊急に改善を要する」の評価もあった。算数少人数指導教員に欠員が出たため、もっと充実させられたという思いからの評価であった。ICTを中心とした校内研究の取組をはじめ、児童の論理的に考える力を高められるよう授業の改善を図った。また、対話や交流を通じた他者の考えから自分の考えを広げていく力を伸ばす活動にも取り組めた。プログラミング教育およびICT機器を活用した授業を行っているが、更なる充実を図りたいという思いから、「B：達成している」の評価が多いと捉え、「A：十分達成している」と自己評価する者を増やしたい。各教科や、学校生活全体の振り返りを繰り返すことで、児童の変容を確実に捉えていくことで、自信をもって「A：十分達成している」と自己評価する者を増やす。

重点目標2について、「B：達成している」の割合が高い。あいさつや返事等、児童の変容が見られたことが評価されている。児童自らが率先してあいさつを行う等、学校全体としてあいさつや返事が当たり前の雰囲気をつくり、「A：十分達成している」という評価者を増やす。

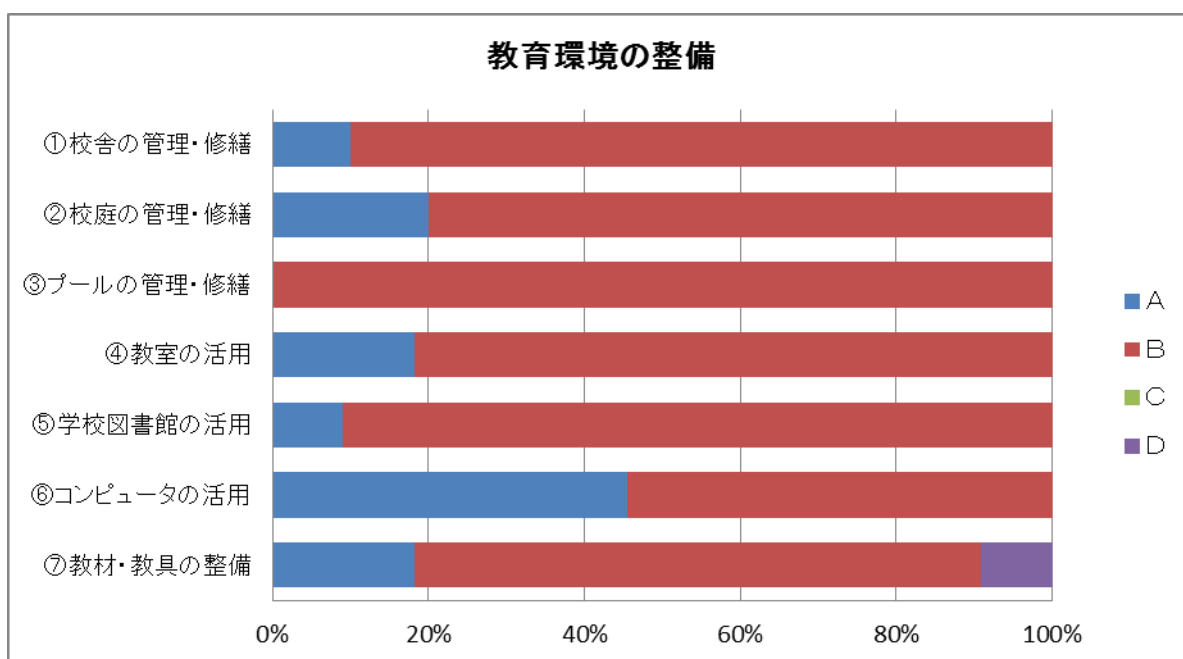
重点目標3も、全ての項目で「B：達成している」以上の評価である。「邦楽・オリンピック・パラリンピック教育の取組」の項目は、パラリンピアンなどの外部講師を招き、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて充実させていくことができた。また、邦楽は年4回の発表の機会をつくるなど、保護者からの評価も含め高かった。2020年度のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせ、国際理解および邦楽を中心とした自国理解も含め、「A：十分達成している」と評価する割合を高めていく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況



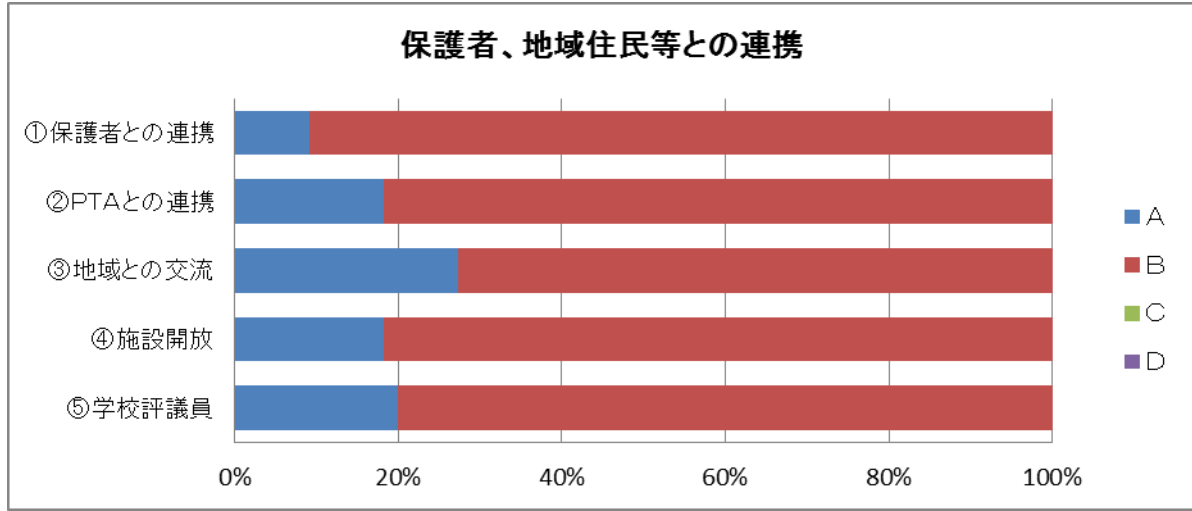
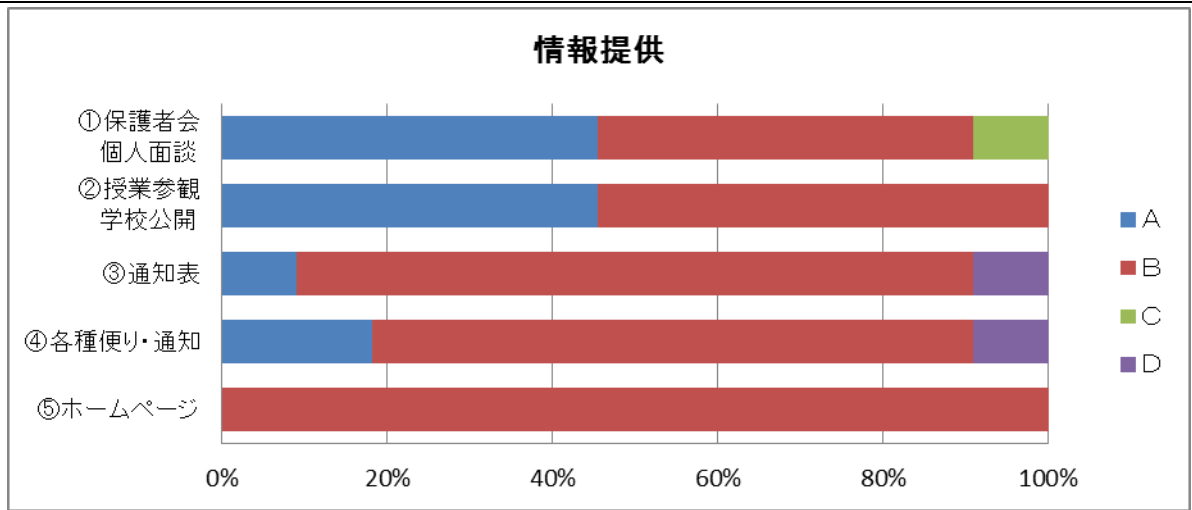
(1) 年間授業時間数について

昨年度に比べ、A評価が減り、B評価が増えている。今年度、授業日数が少なかったこともあり、年間の行事準備や授業準備の時間が確保しづらい状況であった。行事の精選を進め、授業時数を確保していくとともに、授業の質を高めていく。



(2) 教育環境の整備について

坂本町公園校舎での生活、二つの学校で共有している校舎の使用にも対応し、教室の活用、学校図書館の活用の評価が昨年度に比べ上がった。「教材・教具の整備」の評価項目については、改善が必要という評価が出ている。管理職を始めとする2校の連絡・調整が円滑に進んだことが、教育環境の評価の高まりにつながった。教材・教具については、不足しているものについては補充するとともに、児童個々に応じた教材の準備を進めていく。



(3) 「情報提供」および「保護者、地域住民等との連携」について

「情報提供」については、概ね「A：十分達成している」「B：達成している」ではあるが、「個人面談」の評価項目ではCの評価、「通知表」「各種便り・通知」の評価項目では、Dの評価もある。保護者への伝え方、評価項目等を検討することで、内容が伝わりやすくなると考えている。学校と保護者、地域との情報共有をより進めるために、保護者や地域には、個人面談や各種便りなどを中心に、情報を共有できるよう進める。

「保護者、地域住民との連携」については、「A：十分達成している」「B：達成している」と評価している。より連携を高め「A：十分に達成している」の割合が高くなるよう、保護者・地域との情報共有を進めていく。

3 今後の改善方策

- (1) 令和2年度2学期より始まる新校舎での生活に向けて、教育環境の整備が課題となると予想される。新校舎での基本的な学校生活を整備するとともに、2校で共通理解を図るための、相談、調整を行うことが、今後の課題として出てくる。「チーム阪本」として共通理解のもと共通実践を行い、2校で連携、協力していく。
- (2) 学校から、保護者・地域への情報発信を強化するために、HPや各種便り等など活用する。また、情報を共有することで、学校・保護者・地域が協力して、児童の指導を進めていく。

(3) 児童一人一人の問題や悩み、トラブルに対して、児童アンケート、担任による年3回の面談、朝会等での教職員による情報共有する場の設定を行い、すばやい対応を図る。また、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校サポートチーム、特別支援教室の教員等との組織的な連携・協力を継続していく。